

(別紙4) 平成 24 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874300973		
法人名	有限会社 ケアサービスコスモス倶楽部		
事業所名	グループホーム にれの木桃花寮		
所在地	茨城県古河市仁連 1987-15		
自己評価作成日	平成24年12月27日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874300973-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874300973-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成25年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族様の意向や思いを大切に住民慣れた地域で穏やかに暮らし、施設の一部を開放する事で家族や地域の方々との交流を持てるように支援します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは障害者施設、小規模多機能ホーム、訪問介護事業所が併設されている。事業所名にもあるように敷地内には50本の桃の木が植えられ、夏には美味しい桃が収穫でき、利用者だけでなく家族や近隣住民にも配られ大変喜ばれている。また、各施設に暖炉が設置され、冬場はこぞって暖炉の側で過ごし、薪の燃える音を聞きながらゆったりとした時間が流れていた。廊下や天井も広く、高く、快適な空間を演出していた。社長自らまめにホームに足を運んで利用者や職員とも隔たりなく接しており、職員も“とても働きやすい場所”との事。また、管理者やケアマネは利用者や職員に気を配り、とても信頼されているのが感じられた。利用者は職員とともに居室の掃除や廊下のモップ掛けを行ったり、桃の木の手入れや室内観葉植物への水やり、暖炉の掃除、薪運び、食事の準備の手伝いなど、家庭にいた時と同じように役割を担い、皆でホームを大切にしているという印象を受けた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりに心のこもった支援を目指します」「共に歩み日々穏やかに過ごせるように努めます」「家族も含め地域交流を図ります」という理念のもと積極的な地域との交流に努めています。	理念は玄関入って左側に掲示され、誰でも目を通す事ができる。心のこもったケア、地域交流、人権尊重を3本柱に職員に浸透されていた。管理者は普段の業務を通じ指導にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、スタッフ会議、定例会議などを通して地域密着について何をして行くかを話し合い取り組んでいます。	ホームで桃祭りを開き、地域の方に参加していただいている。ホームでは地域の祭りに参加し、バザーを開催して寄付金を集め、災害被災地に全額寄付している。子供会の祭りの山車として提供し、小学校の体験学習の場や、インターンシップ、ホームヘルパーの養成講座の受け入れも行っている。とても交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会参加、子供会行事などへの参加、地域の人々の集まる場所としての事業所の提供など行なっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、行政など参加で運営推進委員会の開催、会議場での研修、意見の交換をし、サービスの向上に努めています。	推進会議は2カ月に1度開催。参加者は市介護保険課職員、民生委員、ボランティア、地域住民、家族代表等。活動報告の他、防災についての意見等が出ている。地域のイベントに関する話し合いも盛んに行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネ自らが行政に積極的に行き、サービスの向上、連携、報告をしています。	ケアマネが中心となり、市の介護保険課に問い合わせたり、直接出向している。他、生活保護担当者や障害福祉課担当者とも連絡をまめにとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	継続して職員の指導も含めた身体拘束に関する研修、身体拘束の意味の理解に努めています。	現在、身体拘束は一切行っていない。月1回の全体会議で勉強会を開き、その都度、身体拘束の意味について理解を深めている。過去にやむを得ず拘束を行ったが、マニュアルも作成し、ケアプランに明記し、家族への説明と理解、同意を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で話し合い、身体・精神的なものの拘束のないケアや観察、報告をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け訪問時やデイ・ショート利用時などの身体・精神的なもの等の観察や報告をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学や契約内容の説明を行い、納得していただいてから契約書に印を捺していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見の聴取や電話面会時随時に意見の聞き取りなど家族が意見を述べやすくなるよう工夫をしています。苦情処理の解決第三機関を設置、受付報告を運営推進委員会の場において行っていきます。	殆どの利用者の家族が月1回は面会に訪れるので、面会時に家族の意見を聞くようにしている。緊急時には直接電話をしている。他、年2回家族会を開催し(桃祭り、クリスマス会)、そこで意見を聞くようにしている。	直接的な意見は出ていないとの事であるが、遠方の方や面会に来られない方、意見を直接言いにくい方等への対応として、定期的に無記名アンケートを実施し、その結果を職員・家族と共有し今後のケアに役立てて頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等の場において意見交換をしています。	定例会議にて職員の意見や要望を聞くようにしている。前回に比べて改善されており、浴室の手すり設置なども早急に対応して頂いていた。職員と社長・管理者の壁は無く、とても働きやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ヘルパー2級・介護福祉士等の資格にあわせ資格手当を支給し、また実践者研修修了者は役職者に任じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講者が職員に対し研修を行なう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設同士の情報交換を寮便りを通し、サービスの向上に努めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者には本人、家族に寮の見学や説明などしながら、本人の要望などを傾聴し、馴染める雰囲気を作り、安心感を持てると同時に信頼関係を持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の方が安心して話せる雰囲気を作り、傾聴、理解し、適切な情報収集と提供に心がけ、信頼をいただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の現在置かれている状況を聴き取り、生活上で直面している困りごとを把握し、適切な情報の提供に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主訴として困りごとや心配事を聴く際に、本当は自分はどうありたいのか、ニーズの共有、自己決定できるような支援を心がけています。料理面や特技など人生の先輩としての意見を聞くなど支えあう関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の規制を決めずに随時に面会・外出と一緒に出来、家族会の開催時の協力や一緒に行う等の他、通院などの可能な限り、家族と一緒に支援できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もケアマネ、職員で本人の自宅での生活の様子やその環境などの把握に努めて家族等の面会やボランティアさん等やなじみの物などの環境づくりに努めています。。	家族や近所の方がよくホームを訪れる。家族と銭湯や旅行に出かけたり、墓参りに出かける支援をしている。また、本人希望により、近所のレンタルビデオや図書館に職員付き添いで出かけたり、行きつけの美容室や外食の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビング、食堂をメインに10時3時のティタイム、レク・リハ参加時などに交流が持てるように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退寮にあたり、行き先など資料を含め、家族と共に探して次につなげています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案時に本人の意見を積極的に取り入れ、傾聴し、できるだけ本人の意志に沿い作成本人・家族に説明しています。	申し送りノートを活用し、職員から聞いたこと、家族から聞き取ったことを記入して本人の意向把握に努めている。勿論、本人の訴えにも耳を傾け、真摯に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や楽しみの価値観など傾聴し把握に努め、今で頑張ってきたことに共感し、今までの生活の継続への支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お聞きし、スタッフ同士の随時の申し送りやバイタルチェック・ノートの活用、観察をし、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を職員間で共有し、情報を得ています。	計画書は、本人の周囲の環境と社会的環境の関係を把握することを念頭にし、本人、家族の意向をしっかりと踏まえ作成されていた。また本人及び家族への説明を行い、同意を得ている。ケース記録は時系列でまとめられ、本人の言動や態度が挙げられ、見やすくなっていた。モニタリングは毎日チェック方式で付けられていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者・職員間で日々のケアや問題点などその都度話し合いをし実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の意向やニーズに合わせて通院の支援や面会の依頼、話し合えるような支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、ボランティア、友人、地域の方々との交流を持ち、笑顔のある生活への支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院の他、寮の協力医院の県西在宅クリニックの往診診療、斉藤歯科の受診、往診など希望に沿った医療への支援を心がけています。	往診と訪問看護は24時間体制で対応。他、定期的にも診てもらえる。訪問歯科もあり、体制は整っている。かかりつけ医も希望により受診対応をしている。受診ノートを活用し、家族への連絡もその都度行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックなどや様子観察、気づきなど他スタッフとの連絡・報告を取り支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院時には医師、看護師と看護婦と家族との連絡・報告を取り合いできるだけ情報交換に努めて家族・本人の相談に乗り支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化に関しては本人・家族と話し合い方針を決定しての支援を心がけています。	看取りを行っており、過去6名の方を看取った実績もある。看護師を中心に看取りの勉強会を開き、理解を深めている。看取りの同意書は、その時に同意書を交わし、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防本部より講習を受け、対応への勉強、支援をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時はふれあいスポーツセンターに避難。又、井戸水と水道水を使用し水の確保ができるようにしています。日中、夜間想定での避難、通報、消火訓練を行いました。	災害訓練は年2回実施。常に消防署が立ち会いをしている。夜間想定はまだ行っていない。出火場所は調理場のみ。開催時は同法人運営の小規模多機能事業所と同時に行っている。備蓄は十分に備わっている。	①夜間想定訓練 ②出火場所を台所に限らず実施 ③併設事業所と同時開催ではなく、協力体制を整える ④地域住民の参加 …以上の点を踏まえ、実際に起こり得る事を強く認識して取り組んで頂く事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライド、プライバシーには十分に配慮し対応、支援をしています。個人情報の取り扱い、写真の掲載などは同意書にて頂いています。	介護保険業務に関する個人情報、及びその他ホーム便り等に掲示する写真の同意書を交わしている。個人ファイルについては、併設の小規模事業所に保管されている。面会時にはノートを使用。	面会記録は他者にわからないよう、一枚綴りにするのが望ましい。また、個人ファイルについても、鍵付きの書庫を用意し、厳重に保管するよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思できめられるように傾聴し、相談に乗り支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向・希望に配慮して自分で選べるように、声かけ支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や身だしなみなど自分で、できるように声かけや準備などの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や調理の準備など状況に応じて手伝ってもらい出来る範囲で参加を促しています。職員も一緒に食事をすることで明るい雰囲気の中で食事が取れるように配慮しています。	食に対する意識は強く、少しでも美味しい物を食べて頂こうという意識が表れている。社長自ら蕎麦を作り提供していた。食事もその方に合わせ、食べやすく刻むなどの配慮がされていた。職員も共にテーブルを囲み、会話も弾んで楽しい雰囲気を感じさせた。また、食事の盛り合わせや配下膳も利用者が率先して行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分など個人別に記録し、把握に努め、医師、家族と連絡を取りあい支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年2回の斉藤歯科の往診、指導を受け、毎日の口腔内のケアや衛生、食事の前の嚥下障害予防のために、発声練習などへの声かけ支援を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンの把握に努め、トイレの声かけや誘導、介助を行い、トイレでの排泄に向けて、出来るだけプライドを傷つけないような支援を心がけています。	排泄パターンへの把握に努め、利用開始時にオムツを使用していた方が布パンツになった例もある。車いすの方もトイレに誘導し、夏季限定で布パンツを着用する方もいる(冬はリハビリパンツの方が暖かいからの本人希望により)。オムツ、リハビリパンツの方もトイレ誘導し、排泄パターンへの把握に努めている。オムツ等使用者に対しては今後、更に使用枚数を減らし、コストへの意識も高めていくとのこと。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の工夫や看護師と連携し、排便のパターン、把握に努め個々に応じて支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の様態や希望を聞きながら個々にあわせた支援をしています。	入浴は大体1日おきだが、毎日入る人もいる。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯を使用し、季節を感じ、気分良く入れるよう配慮している。車いすの方も2人で介助し、浴槽に浸かっている。足拭きマットは1人1枚使用し、感染予防にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を部屋に置き、居心地の良い空間や安眠できるように話し相手や相談に乗り、安心して休むことができるような支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師により、薬の把握、説明、個々にあわせて支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分たちで食べたい物を作ったり、今までの趣味など他の入居者の方々へ教えあったりして、お互いに持っている力を発揮できるような支援を心がけています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアさんの協力を得て、地域のお祭りや産業祭などに参加、家族、職員と一緒に買い物や外出など希望に合わせて支援をしています。	普段から、施設周辺の田圃道を散歩したり、近隣のスポーツセンターに出向いている。また、イベントでひな祭りを見に行ったり、外食イベントも行っており、外出支援も積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にあわせて金銭管理への支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙など本人が希望時随時に出来るように支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖炉の暖かさのある生活空間の延長のような環境や四季を五感で感じられるよう花や緑に囲まれ、居心地よく過ごせるよう支援を心がけています。	ウッド調の建物の玄関を開けると正面には暖炉が出迎え、横には手作りのお雛様や利用者より寄付された雛段が2か所に飾られ、季節を感じさせた。また、廊下には観葉植物が沢山置かれ、癒しを与えてくれる。廊下は車椅子が3台ほどすれ違えるくらい広く、天井も吹き抜けで天窓があり明るい日差しがこもっていた。共用トイレは2か所でこれも広く、廊下途中にもソファが置かれ、休憩できるようになっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かく居心地の良い暖炉前や思い思いの場所にゆったりと過ごせる居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を部屋に置き、安眠できるような居心地の良い居場所への支援を心がけています。	ベッドは備え付けだが、家具は馴染みの物が持ち込まれていた。希望にてベッドではなく布団での対応もしている。本人の写真や仏壇を置いている方もおり、“ちゃぶ台”のような歴史を感じさせるテーブルや座布団も置かれ、その方の住まいがそのまま持ち込まれているようであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい部屋への配慮や自発的にリハなどできるように手すりやスロープ、階段などの利用をしています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームにれの木 桃花寮

作成日:平成 25年 4月 12日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者や家族が意見要望が直接的には出ていない。	意見要望を家族、職員と共有しケアにつなげる。	意見聴取に向けて職員間で方法を話し合う。 アンケート調査を実施する。	6ヶ月
2	35	夜間想定 of 訓練の実施、同時ではなく協力体制等を整える。推進委員、地域住民と共に実施する必要がある。	夜間想定 of 訓練の実施。 運営推進委員、地域住民の参加で協力体制ができる。	職員会議、運営推進委員会で話し合いをする。 年に2回実施をする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。